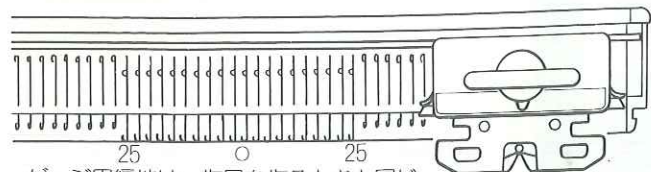
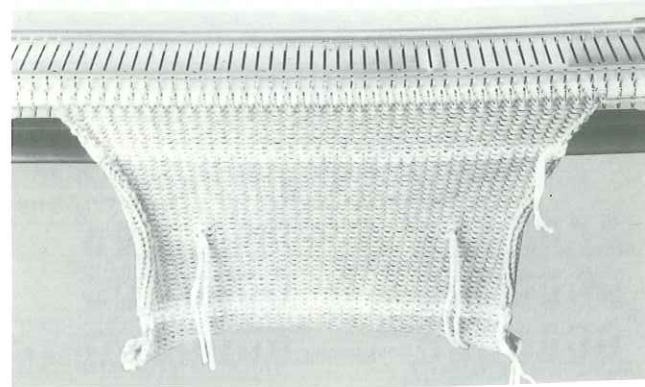
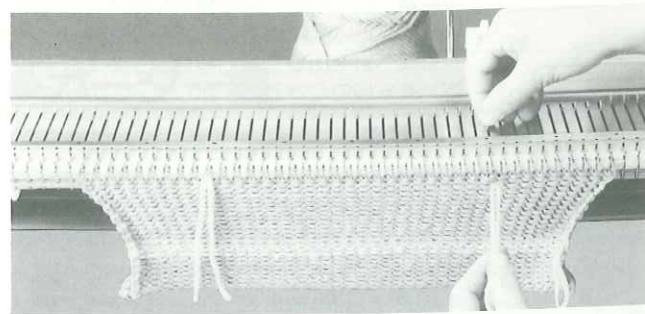
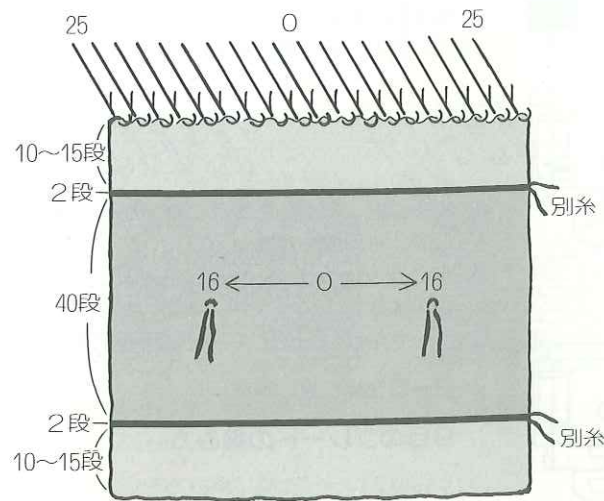


ゲージのとり方 (ゲージスケールの使い方)



ゲージ用編地は、作品を作るときと同じ編み方、同じ編目ダイヤル、同じ毛糸で編みます。



☆ 編目ゲージ (10cmあたりの目数・段数) を、ゲージスケール (黄色) を使って、次のようにして計ります。

ゲージをとるための編地を編みます。

☆ ゲージをとる糸 (作品を編むのと同じ糸) と、その他に、別糸 (色の異なる糸) を少々用意してください。

① 0 を中心にして、左右に25目ずつ針出しをして、編み出しをします。

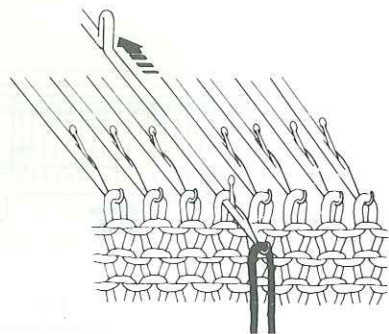
これから段数を数えながら編みますので、段数計を0に合わせ、ギャリジのオクリレバーの右の方を、向う側に倒して作動位置にします。

② 作品を編むときの糸と編み方で、(もし模様編でしたら、同じ模様編、同じ編目ダイヤルで) 10~15段編みます。

③ 糸口の糸をはずして休め、別糸 (色の異なる糸) を通して、ひら編を2段編みます。

④ 再びゲージをとる糸と編み方で、20段編みます。

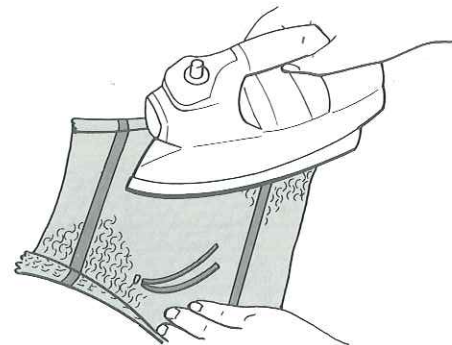
⑤ 中央の0より、左右16本めの針をそれぞれ手で0位置へ出し、短く切った別糸をその針のフックにかけ、B位置にもどします。(左右16本めの針のみ、別糸で編まれたこととなります。)



⑥ 更に、続けて20段編みます。

⑦ ⑤と同じく、別糸で2段編みます。

⑧ 別糸をはずし、ゲージをとる糸と編み方で10~15段編んで、編機からはずします。



ゲージを計ります。

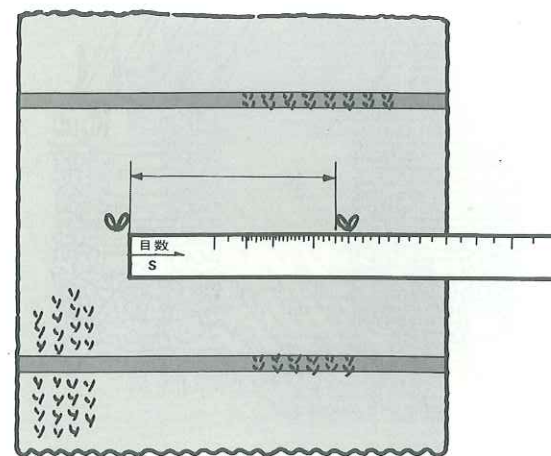
編地を平らに広げて置き、ゲージスケールをあてて目盛を読みます。(目盛の数字が左へいく程大きくなっていきますので、読むとき間違えないようにしてください)

目数...左右16針めの糸印の内側30目の長さを、ゲージスケールの目数目盛の方をあてて読みます。これがこの編地の目数ゲージです。

◎ はずした編地は、手で、縦、横に伸ばしたり、上から軽くたたいて目をならします。(1日位、放置しておくとう更に理想的です)

⑩ スチームアイロンか、蒸気をあてて編目を仕上げの状態にします。

注: アイロンは、すこし浮かすような感じでかけます。押しつけてかけますと、目がつぶれてしまい、風合いが損なわれてしまうばかりでなく、正しいゲージが計れません。

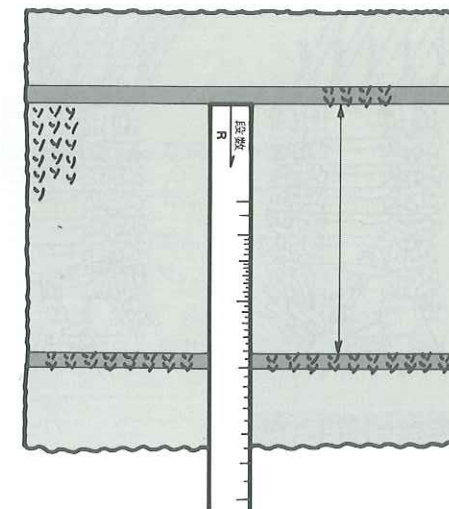


ゲージについて

ゲージは編目の密度を示すもので、10cmあたりの目数と段数で表します。ですから、ゲージの数が大きい程、目が細かいこととなります。

ひら編などは、適当な大きさの編地を編み、それに物差しを当てて、10cmあたりの目数と段数を数えてしまってもかまいませんが、引き上げ編や、すべり目編、なわ編等の模様編では、目や段がはつきりせず、数えにくいものもあります。そのようなとき、このゲージスケールを使用すると、目や段数を数える必要がなく、とても便利です。

段数...別糸で編んだ内側の40段分の長さを、編地のゲージ中央付近で、ゲージスケールの段数目盛の方をあてて読みます。これがこの編地の段数ゲージです。



ゲージスケールについて

ゲージスケールには、編機のピッチや使用糸の太さによって3種類のものがあります。この機種には黄色のものが入っていますが、他のものとの比較は下表の通りです。

スケールの色	スケールで計る目数	スケールで計る段数範囲	適用糸	使用編機
グリーン	40目	60段	極細~並太	3.6mmピッチ機 4.5mmピッチ機
黄色	30目	40段	中細~極太	6.5mmピッチ機
ブルー	20目	30段	並太~超極太	9.0mmピッチ機